

下野市立緑小学校

1 学校課題

「共に学び合い・高め合い・認め合う児童の育成」

～児童一人一人の学力・学習意欲を高める授業づくり～

本校の学校教育目標や児童の実態から、本年度の学校課題を設定した。年度当初の全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査の結果では、児童は、学習に対して前向きであり、基礎・基本の定着が十分に図られていた。さらに、細かな分析を行うと、発展的に思考する力や既習内容を有効に活用する力の育成に児童一人一人の学力の向上の伸びしろを捉えることができた。

そこで、研究を進めるにあたり、算数の指導に軸を置くこととした。研究の実践では、児童が日常生活の中で見つけた疑問や課題に着目し、これまでに習得した知識や技能を活用して解決する場面を、教師が意図的に設定するようにした。自分たちの生活に関わる身近な話題には関心もあり、それと算数的な活動を自然に関連させ、より深く探究することで活用する力を育成できると考えた。併せて「書く活動」を適切に取り入れることで思考力を確実に身に付けさせたい。

2 研究計画

(1) 全校体制での指導実践（一人一授業の実践）

- ・本時の学習目的の認識：「本時のフレーム意識」児童と教師が互いに同じ目的意識をもって課題解決。
- ・学習活動の分節化：「ユニット型授業」の意識をもって児童に対応しながら授業展開。
- ・学習活動の協同化：「グループワーク」を取り入れることによる「学び合い」のある授業。

(2) 校内研究会

- ・S&Uコラボ授業での授業実践
- ・学力向上推進事業によるアドバイザー訪問

(3) 研究のまとめ

- ・成果と課題の確認と次年度の課題検討



3 研究内容

(1) 授業研究の概略

	教科	研 修 内 容	
①	算数	6月7日（火） S&Uコラボ事業による研究会	
		講 師	宇都宮大学 教育学部 教授 松本 敏先生 下野市教育委員会 指導主事 田澤 孝一先生
		講 話	「学び合う子どもたちの姿」 ～それを生み出す条件～
②	国語	6月22日（水）学力向上校内研修：映像指導資料視聴 資料映像：国立教育政策研究所「小学校国語科映像指導資料」	
		指導者	学校課題主任 金久保 貴子教諭 学習指導主任 塚田 成美教諭
		研 修	言語活動の充実を図った「読むこと」の授業づくり
③	算数 3-1	9月12日（月）学力向上推進事業による研究会	
		指導者 授業研究会	栃木県教育委員会 学力向上アドバイザー 綱川 淨恵先生 単元名 「重さ」
④	算数 3-2	11月2日（火）S&Uコラボ事業による研究会	
		指導者 授業研究会	宇都宮大学教育学部 教授 久保田 善彦先生 下野市教育委員会 指導主事 稲葉 亜希恵先生 単元名 「重さ」
⑤	算数 6-1	11月9日（水）学力向上推進事業による研究会	
		指導者 授業研究会	栃木県教育委員会学力向上アドバイザー 綱川 淨恵先生 下野市教育委員会 指導主事 岡本 直美先生 単元名 「比」

⑥	算数 6-2	1 2月 7日 (水) 下野市 S&U コラボ事業による研究会	
		指導者	宇都宮大学教育学部 教授 久保田 善彦先生 下野市教育委員会 指導主事 稲葉 亜希恵先生
		授業研究会	単元名「拡大図と縮図」

(2) 研究の実際

①第1回研究会 (S&U コラボ事業による研究会)

講話：「学び合う子どもたちの姿」 ～それを生み出す条件～

<内容> 映像視聴：「さくらさんの解き方」について (6年「円の面積」)

講師の松本先生が提供してくださった映像資料は、子ども同士が円の面積の求め方について教え合う授業風景で、そこには学び合いの基盤である「聴き合うことのできる集団」に必要な要素が捉えられた。研究課題の解決に向け、子どもの表情や動きを詳細に読み取る授業研究、授業者の意図に寄り添って語り合う授業研究、職員室の人間関係と学級の人間関係、反省的実践家としての教師のあるべき姿等、研究の方向性を確認することができた。この内容をもとに、研究を深めてきている。

②第3回研究会 (学力向上推進事業による研究会)

3年1組 算数「重さ」



<本時の目標> 郵便料金表を読み取り、重さの学習を活用して問題を解決することができる。(数学的な考え方)

本時は単元のまとめの段階で、「活用」「探究」に関わる内容である。「重さ」の概念を理解し、計量・表記ができるようになった児童が、それらの学習を活かして課題を解決する内容である。全体量と写真1枚3gの条件の中で、料金表に照らし合わせて中に入る写真の最大枚数を割り出していく。児童はグループでの話し合い活動で互いの考えを聞き合い、より分かりやすい説明を目指していた。

③第6回研究会 (S&U コラボ事業による研究会)

6年2組 算数「拡大図と縮図」

<本時の目標> 縮図の考えを用いて、校舎の高さを調べよう。

これまでの研究の過程で明らかとなった、児童の学習意欲の高揚を図るための手立てや知識や技能の活用を促す場面設定等を踏まえて、本時では本校の校舎の高さに着目させた。前回の授業研究の展開にあった、課題解決に「必要な条件の選択」を取り入れて、学習グループで話し合い活動を行った。小グループで話し合ったものを全体で練り上げていく事の大切さを研修した。



4 本年度の成果と課題

【成果】

- 本校の研究内容の一つである「ユニットプログラム型」から、児童同士の話し合い活動に「ペア」や「グループ」「一斉」といった様々な形態を取り入れ、学習内容に応じて変化させたことによって、自分の考えを深めることにつながった。
- 児童自身の学校生活に即した課題を設定することで、児童の学習意欲を高め、「活用」「探究」につながっていく。
- ICT活用は、児童の学習意欲の向上、分かりやすい授業の展開に有効であった。

【課題】

- さらに学習内容を「活用」「探究」する授業実践を目指し、児童の学習意欲を高め思考力を伸ばしたい。
- 児童個々の意見を全体で練り上げていく際の指導法を研究したい。
- 効果的な振り返りをさせ、さらに児童主体の学習になるよう工夫していきたい。